

■ 0歳児さんのママの声より…

我が家で3番目に生まれた息子は、生まれた瞬間3人の中で一番元気に可愛い声で泣きました。入院中すぐの新生児聴覚スクリーニングでリファア(要再検)と言われた時のお医者さんの様子は今でも覚えています。私は「よくあること」というお医者さんの言葉を真に受け、息子以外のどこかに何か原因があるのだと、ずっと信じていました。入院中も退院してからも、何度も検査をしましたが繰り返しリファア。とうとう大学病院の紹介を受けたときも、まだ息子は聞こえていると信じていました。

大学病院で精密検査の結果を告げるお医者さんの「結構重いよ。ほとんど聞こえていない」という言葉の衝撃を今でも忘れていません。それを聞いた時、頭が真っ白、この子の人生どうなってしまうんだろう、私の人生や家族の人生どうなってしまうんだろうと不安と悲しみに潰されてしまいそうでした。インターネットで同じ境遇の人の話を探し、希望があると思いたいの辛い話にばかりが目について「やっぱり…」と自分を追い詰めて泣いてばかりいる私の横で、息子は無邪気に笑っていました。生後2か月頃のことです。

それから、何も分からないまま大塚ろう学校の門をたたくことになります。「ろう学校」という響き、とても嫌でした。自分とは関係ないはずだった言葉に、私は『向こう側』に行ってしまったと思いました。はじめは「ろう学校」に通うのは嫌だと思いました。しかし、息子のために必要だということはわかっていました。

しかし、実際に乳幼児教育相談のひよこみ通うようになると、いろいろな人に出会い、いろいろな経験をし、いろいろな考え方をきくことができました。今思うと、やはり「ろう学校」に通うことは、聞こえない子の母として大きな転機になったのだと思います。

私にとって一番の大きな出会いは「聞こえない先生」であるH先生です。H先生は聞こえる・聞こえないを超えた魅力あふれる人でした。そのH先生が聞こえない子を育てることを不安がっている私に向かって「聞こえないとばかりに目を向けなくて、いっぱい子供を可愛がって、今のこの時期の親子関係を楽しんで!」と言ってくれました。私は息子の「聞こえない」ということばかりにこだわっていたことに気がきました。なんでもつたいないことをしたんだろう!息子の全部をもっとちゃんと見てあげたいと思いました。H先生は私の初めて出会った耳の聞こえない大人でした。明るくてウイットに富んでいて、それでいて優しく、真剣に生きていて…大事なことは、耳が聞こえるかどうかではなく「どんな人になるか」なんだと知りました。

それから、気分が落ち込むことも何度となくありましたが、それを支えてくれたのは、先生と同じグループのママたちです。先生の明るい声は「そのことで今悩むのはもったいないよ。もっと楽しいことがいっぱいあるよ!!」と言ってくれているようでした。それからママたちは、難聴児を育てる親という同じ立場で、悲しいことも、嬉しいことも、そして小さなことや当たり前のことも、おしゃべりして共感してくれ、マイナス思考になりがちな私を幾度となく助けてくれました。この同学年グループのメンバーが一生の友になるという話をきき、このメンバーに出会えたことに感謝しています。

そして、今、私の中の変化は振り返るとちゃんとありました。一番大きな変化は、あんなに受け入れ難かった息子の難聴を少しずつ受け入れ始めていることです。今はまだ、他の子との成長の差は感じませんが、これから比べてしまいそうになることも、あるかもしれません。でも、息子は息子で、可愛い可愛い我が子です。これからは弱い自分と向き合い、そんな自分も受け入れながら、「今この瞬間」の親子の時間を楽しみたいと思っています。

